

遊技産業の持続可能な成長を目指す

“LOGOSプロジェクト”

第2回セミナー「LOGOS Akademeia Vol. 2 in Tokyo」を開催

“LOGOSプロジェクト”が始動したのは2011年夏のこと。遊技産業界に対する社会の理解を仰ぎ、人々に必要とされる産業として成長を遂げることを願う有志が集まり、スタートさせた。昨年8月には大阪で第1回セミナーを開催。盛況を受けて今年3月、2回目のセミナーを東京で催した。

セミナーの名称は「Akademeia(アカデメイア)」。参加者全員で学び、考える場として機能させる

3月9日、遊技業界をコアに知的サービスの提供を行うワールド・ワイズ・ジャパン(大阪市西区・濱口理佳代表)が、東京都千代田区大手町の産経新聞本社会議室でセミナー「LOGOS Akademeia Vol. 2 in Tokyo」を開催した。“LOGOSプロジェクト”とは、遊技産業の真の姿を正確に把握することで、対応すべき諸問題の解決に向けた取り組みに着手。同時に、社会一般に広く知ってもらふ活動などを通じて、パチンコ業界への理解を仰ぎ、産業の持続可能

な成長を目指す。その思いを共有し、行動する集団として2011年に“LOGOS”を結成。遊技産業に立脚したシンクタンクとして、インテリジェンスを触手に有用な情報と戦略の提供に注力。パチンコ業界を次世代に相応しい形で継承するために、ともに考え、スキルアップを実現する場を提供する。

当日は、濱口代表(LOGOS主幹)の司会・進行のもと、LOGOSメンバーがレクチャーを展開。冒頭には、宗教人類学者の植島啓司氏がLOGOSインテリジェンスアドバイザーとして来場し、同プロジェクトに寄せる想い、期待についてコメント。

「LOGOSのようなリサーチ機能を持つ遊技業界由来のシンクタンクが機能することで、パチンコの大衆娯楽としての成長が促されることを願う」と激励するとともに、今後もセミナーでの講演や多岐にわたる助言など、プロジェクト推進に向け可能な限りの協力を約束した。



当日は満員の盛況。セミナーには多くの経営者や企業幹部が参加した

遊技産業を取り巻くデータから2012年の市場を展望

レクチャーでは、第一部にLOGOS上級研究員の伊藤実啓氏(遊技通信社代表)と岸本正一氏(オペレーショングルー

プ代表)が「データで読む2012年の市場動向」をテーマに講演。消費動向調査、総務省家計調査をはじめ、さまざまな統計データの分析と、業界関連データとのクロス分析で遊技市場を浮き彫りにするとともに、稼働よりも市場を見るマーケティングの重要性について言及した。

単身世帯における所得層別マーケットシェア推計

所得層	平均行動日数 /年	標本数		平均行動日数 × 支配率	マーケットシェア	
		人数	支配率			
100万円未満	47.7	3553	25.5%	12.17	23.6%	80.1%
100~199万円	55.3	3634	26.2%	14.52	28.1%	
200~299万円	47.9	2627	19.0%	9.09	17.6%	
300~399万円	47.4	1633	11.8%	5.59	10.8%	
400~499万円	50.2	819	5.9%	2.97	5.8%	
500~699万円	55.3	835	6.0%	3.34	6.5%	
700~999万円	66.4	501	3.6%	2.40	4.7%	19.9%
1000万円以上	82.3	262	1.9%	1.56	3.0%	
総計		13844	100.0%	51.64		

・マーケットシェア=マーケットサイズ/マーケットサイズ総計×100%
※平均行動1回につき使用金額を一定と仮定した場合

出所: LOGOS PROJECT

プログレッシブセミナー LOGOS Akademeia vol. 2 in Tokyo 開催のご案内

リサーチ&コンサルティング
LOGOS Akademeia

遊技産業“変革”のシナリオ

カジノ法案を背景に加速する規制強化、指導徹底、パッシングの動き・・・

そこから見える業界の未来とは?



応援
挨拶

■植島啓司
LOGOS インテリジェンスアドバイザー
宗教学者。1947年東京生まれ。東
大大学院(宗教学専攻)博士課程修了。
シカゴ大学大学院を経てNY ニューヨーク
・フォー・ブローヤーズ・リサーチ・イン
スティテュートの教授。国内外で講演。著書「異
議のチカラ」刊行中。など多数。

2012年3月9日(金) 12:30 開演

(12:00 開場予定)

【場所】産経新聞本社7階会議室(東京・大手町)

主催: 株式会社ワールド・ワイズ・ジャパン 協力: ELAccess1, フジサンケイビジネスアイ



■POKKA 吉田

LOGOS インテリジェンスパートナー



■伊藤実啓

LOGOS 上級研究員



■濱口理佳

LOGOS 主幹



■岸本正一

LOGOS 上級研究員



■三浦健一

LOGOS インテリジェンスパートナー

WEBSAID: 「POKKA吉田のビー」業界専門誌「遊技通信」発行人、
「ドット・ジョイ」主筆。ば 「レジャー白書」編集および「ギ
ャム」誌編集。企業研究、消費者調査、マーケティング
戦略の企画、PR、メディア戦略など。株式会社遊技通
信、遊技TV出演、講演多数。 産経新聞社に専任し、現在
著書に「パチンコがなくなる日」による、娯楽市場の現状、セミナー
「上場の真実」など。一講演なども行う。

■いまを知り、明日を読み、業を築く

遊技としての未来に賛同が鳴りはじめました。いいえ、かすかな
の音は前から聞いていたのかもしれない。聞こえるはずの音に耳
を塞いできたのかも知れません。いずれにせよ、再望以降、広告宣伝
規制における即断の断念をはじめ、一物一産の断念、パチスロAHT
への断念等、カジノ法案の成立に向けた動きを背景に、この「断念」は
音を増し、具体化しつつあります。また、パッシングも依然、止む方
向にありません。
このような現状を、私たちは憂えるだけでよいのでしょうか。流さ
れるまま、何もせずに、この産業は次世代へと「たすき」を繋
いでいけるのでしょうか。
まさにいま、遊技業界は、社会から「産業としての立ち位置」を問
われています。
重要なのは、これら断念に備わった諸問題を「業の承継」という視
点で捉え、企業としてどう向き合おうかを考え、産業としてのムーブ
メントに備え、進んでいくことではないでしょうか。
大枠の変化を持つのではなく、真に業の存続を願う個々の変化を加速
させ、これを全体の動きへと昇華させること。それが、持続可能な産
業として維持、成長させていく唯一の道だと考えます。
LOGOSでは産業自体を長く生き残らせることを視野に、遊技業
の在り方における固定観念を根本から見直し、時代や社会ニーズに呼
応した遊技産業の姿を模索。ともに能動的なビジネスを創造する有志
として、議論を共有できるホール・プレイヤーと知恵の結集を進めて参ります。

プログラム&タイムテーブル

12:30~12:35	開場	組合会社・第1回任
12:35~12:50	濱口理佳	組合のごあいさつ
12:50~13:05	植島啓司氏	LOGOS本格活動に寄せて(応援あいさつ)
13:05~14:00	伊藤実啓 岸本正一	“データで読む”2012年の市場動向 ・2011年のデータが語る遊技産業と2012年の市場動向 ・稼働よりも“市場”を見るマーケティング ・消費動向調査/総務省家計調査/消費者金融
14:00~14:15	休憩	
14:15~16:15	三浦健一 POKKA 吉田	業界の裏面 三浦健一、POKKA 吉田に何を聞く! ジャーナリストの視点 “最新情報から読む”2012年 ・カジノ法案とパチンコ規制、その関連性 ・止まない反パチンコの動き ・パッシングの歴史から見る“いま” ・現場の皆さまからのご質問もお待ちしております ・その他、業界を取り巻く問題をお話し
16:15~16:30	伊藤実啓	組合のごあいさつ&名刺交換会

ご参加のお申し込み方法は裏面にございます。

計データの分析と、業界関連データとのクロス分析で遊技市場を浮き彫りにするとともに、稼働よりも市場を見るマーケティングの重要性について言及した。

まず、遊技機設置台数の推移や参加人口推移など、これまでに発表されている遊技業界に特化した基本データを確認。次に、LOGOSが独自にパチンコプレイヤーの人物像を分析。所得、年齢層、教育レベル、家族構成などの属性別に遊技参加頻度を整理するとともに、「2:8の原則」における「2」にあたる人々および「8」にあたる人々の人物像を明らかにしていった。

また、所得別参加頻度データから、低所得者層と高所得者層の参加頻度、人口分布をベースに加重平均を算出。「低所

得者層マーケットサイズ」と「高所得者層マーケットサイズ」を提示した。

これらの分析の上に、データ発表以降における社会情勢と遊技業界のトピックスを踏まえ、現在の状況を推測。遊技市場を、内部の直接的データと外部の間接的データを用いて把握することの重要性を伝えながら、業界に特化した情報にのみとられる「近視眼からの脱却」を訴えた。

最後に、コンプライアンスの順守はもちろん、産業を取り巻く法律をもっと熟知する必要性に触れつつ、消費増税や人気遊技機の検定切れへの対応など2012年に遊技産業が対応を検討すべき課題を提起。第二部へと繋げた。